

論文

エシカルツーリズム普及・発展の実現可能性 —市民の環境意識やボランティア意識を問うアンケートから—

Feasibility of promoting and developing ethical tourism -From a Questionnaire on Citizens' Awareness of Environment and Volunteerism-

藏田典子・伊勢武史・星野佐和

Noriko Kurata, Takeshi Ise, and Sawa Hoshino

概要

自然環境・地域・社会に配慮した消費活動、いわゆる「エシカル消費」に注目が集まる昨今、観光においても、旅程にボランティア活動を組み込むなど旅先の持続可能性に貢献する「エシカルツーリズム」を推進する動きが世界各地で見られる。心理学的な研究においては、利他行動は受益者のみならず行為者にとっても有益な心理的効用をもたらすことが指摘されているため、エシカルツーリズムの今後の普及が望まれる。しかし、事例報告を中心とするこれまでの先行研究においては、エシカルツーリズムの普及がいかんして可能かという点についてはほとんど論じられてこなかった。そこで本研究では、市民の環境意識やボランティア意識に焦点を当てたアンケート調査の結果をもとに、エコツーリズムの普及・発展の実現可能性について考察した。広島県内の道の駅で行ったアンケートの結果、消費活動における環境意識の高さや、ボランティア活動に参加した経験、また旅行への関心の高さがエシカルツーリズムへの関心につながり得ることが明らかになった。こうしたことから、環境に配慮した消費を行う層や、ボランティアや旅行への関心が高い層へアプローチしていくことが、今後エシカルツーリズムを普及・発展させる上での要となるといえる。

キーワード：エコツーリズム、エシカル消費、環境意識、ボランティア意識

Summary

Ethical consumption, which is consumption that takes into consideration the natural environment, local communities, and society, has been attracting attention recently. In tourism, too, there is a movement to promote "ethical tourism," which contributes to the sustainability of the destination by including volunteer activities in the itinerary, in many parts of the world. Psychological studies have shown that altruistic behavior can have beneficial psychological effects not only for the beneficiary but also for the actor, and thus the future spread of ethical tourism is expected. However, previous studies, mainly case reports, have rarely discussed how ethical tourism can be spread. In this study, we examined the feasibility of promoting and developing ecotourism based on the results of a questionnaire survey focusing on citizens' environmental awareness and volunteerism. The results of a questionnaire survey conducted at a roadside station in Hiroshima Prefecture revealed that a high level of environmental awareness in economic activities, experience participating in volunteer activities, and a high level of interest in travel could lead to interest in ethical tourism. Therefore, it can be said that approaching the segment of consumers who consume in an environmentally conscious manner and have a high interest in volunteering and travel will be the key to the spread and development of ethical tourism in the future.

Keywords: ecotourism, ethical consumption, environmental awareness, volunteerism.

1. はじめに

コストパフォーマンスを追求する経済活動一辺倒では社会の持続性が危惧されている昨今、エシカル消費についての活発な議論が展開されている。Harrison et al. (2005) は、エシカル消費を「政治的、社会的、そして地球環境への影響を考慮した消費者行動」として定義し、エコツーリズムや責任ある観光の選択をエシカル消費の主要7分野の1つとして挙げた。本研究で扱うエシカルツーリズムは、エコツーリズムや責任ある観光を包含しており、旅先の自然環境・社会・歴史・人々に密接に触れ、それらに愛着を感じ、持続可能性を高めるためにボランティア活動などの貢献を行う旅行である。

エシカルツーリズムは、コストパフォーマンスを重要視する従来の消費行動とは一線を画する利他行動 (altruistic behavior) にもとづくことが特徴である。従来の日本においては、「旅の恥はかき捨て」という言い回しにあるように、旅先という非日常的な空間において利己的な行動をとることがある程度肯定される風潮があったこともうかがえる。「立つ鳥跡を濁さず」という概念は前者よりも道徳的であるが、旅先に対する影響をニュートラルなものにすることにとどまっている。一方エシカルツーリズムは、旅行者が訪れることで現地の自然環境や社会の持続可能性にプラスの効果をもたらすという新しい概念である。それは、旅先でボランティア活動を行うなどの利他行動を伴う。他者への親切などの利他行動が本人のウェルビーイングを向上させることを示す心理学的研究もあることから (寺田・津川 2021 など)、非日常的な場所で新たな出会いを経験し、その地域や人びとの役に立ち、感謝されるという一見合理的に思えない行動が、旅行者に特別な心理的効用をもたらす可能性がある。この効果は、観光地をめぐり名物を食べ歩くような従来型の観光では得がたいものである。

エシカルツーリズムの先行研究として、いくつかの海外の事例がある。たとえば、タイのBan Mae Kampong村では、観光客が村の伝統的な活動に参加し、地元の生活を体験することで経済効果が生まれ、文化の保全に寄与していることが明らかになっている (Ngo and Creutz 2022)。韓国の濟州島では、世界自然遺産の登録をきっかけに多くの観光客が押し寄せ廃棄物の増加などの深刻な環境問題が起こったが、観光客がボランティアとして清掃活動や住民との交流などを実施した結果問題が改善され、またこの活動自体が魅力ある体験として旅行者の人気を集めている (Park et al. 2021)。オランダのアムステルダムでは運河のごみ拾いツアーが人気のアトラクションとなっており、旅行者は料金を払って清掃活動を楽しんでいる。また、観光史の視点から事例をまとめた論考 (Loureiro et al. 2021) や成功例にもとづく持続可能な観光についての提言 (Ekka et al. 2023) などが発表されている。一方国内では、沖縄県八重山郡における旅行業者によるエシカルツーリズムの取り組み (藤井 2022) や、瀬戸内国際芸術祭では都市部から訪れるボランティアが離島で開催される展示会の会場運営などで活動するなどの取り組みがあるものの、今後のエシカルツーリズムの普及・発展の可能性について論じた研究はほとんど実施されていない。

そこで本研究は、エシカルツーリズムによる環境保全活動に関するアンケート調査および分析を行うことで、潜在的なエシカルツーリズムの賛同者や参加者の特性を明らかにし、それにもとづいて今後の普及・発展の可能性を検討することとした。本研究は、「エシカルツーリズムを企画したときに、果たして人は集まるのか。どんな人が賛同してくれるか。どのような企画なら参加者が満足するか」などの問いに答えることを目的としている。さらに、エシカルツーリズムへの参加意欲と市民の日ごろの環境意識や消費活動、旅行やボランティア活動との関連を考える。

2. 研究手法

エシカルツーリズムに関するアンケート調査の調査地は道の駅「みはら神明の里」（広島県三原市）である。調査日時は2023年11月3日（金・祝）10時から15時30分であった。調査地は瀬戸内海を一望する丘に位置しており、祝日である調査当日は、広島県内外からの多くの来訪者でにぎわっていた。調査実施にあたっては、調査地の駐車場に隣接した場所（屋外）にてエシカルツーリズムの紹介を目的としたパネル展示を行い、来訪者に対してスタッフによる簡潔な説明を実施した。続いてアンケート調査（表1）を実施した。問4-6は好みの旅行の態様、問7-8は環境問題への関心、問9-11はエシカル消費などの消費行動、問12-14はボランティア経験を問うものであり、問15-18ではエシカルツーリズムに関する興味関心と参加意欲をたずねた。なお、アンケートは無記名かつ個人の自由意思によるものであり、個人が特定されるような情報を収集しないように留意した。

統計解析においては、質問項目を名義尺度（カテゴリカルデータ）と順序尺度（5段階評価のように順序に意味を持つデータ）に分類して整理した。複数選択可の質問項目は、各選択肢ごとの選択/未選択結果をデータ化して解析に用いた。分析には統計ソフトウェアR4.3.2（R Core Team 2023）を用いた。名義尺度データと順序尺度データが有意な関係性を持つかを調べる際には、ノンパラメトリック解析（Kruskal-Wallis検定）を用いた分析を行った。順序尺度データ同士の関係性についてはSpearmanの順位和検定、名義尺度データ同士の関係性についてはカイ二乗検定を用いて分析した。

表1 アンケートに用いた質問項目および選択肢。本研究の解析における分類も記載。

番号	質問項目	選択肢	解析における分類
問1	あなたの性別をお答えください。	男・女・その他・回答しない	名義尺度
問2	あなたの職業をお答えください。	小学生・中学生・高校生・大学生・専門学生・会社員・公務員・自営業・主婦/主夫・その他（ ）・回答しない	名義尺度
問3	あなたの年齢をお答えください	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代以上・回答しない	名義尺度
問4	どのようなタイプの旅行が好きですか？（複数回答可）	ひとり旅・家族旅行・友達との旅行・ツアー旅行・職場や学校で行く旅行	名義尺度
問5	知らない土地に行ったり知らない人と出会ったりすることに喜びを感じますか？	とてもそう思う・そう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・全くそう思わない	順序尺度
問6	旅行をするとき、関心があるものはどれですか？（複数回答可）	史跡・神社仏閣・テーマパーク・ご当地グルメ・ファッション・自然や景観・人との出会い・その他（ ）	名義尺度
問7	どのような環境問題に関心がありますか？（複数回答可）	地球温暖化・大気汚染・海洋汚染（海ごみ）・水質汚染・土壌汚染・生物多様性の危機・資源の枯渇（フードロスなど）・特にない	名義尺度
問8	環境問題を意識しておこなっている行動・活動はありますか？（複数回答可）	ゴミの削減（リサイクル）・省エネルギー・環境問題に関する情報収集・エコ商品の購入・フードロスを出さない・その他（ ）・特にない	名義尺度

問9	「エシカル消費」という言葉を知っていますか？	よく知っている・聞いたことがある・あまり知らない・全く知らない	順序尺度
問10	食品や日用品を買う時、何を最も意識しますか？（複数回答可）	低価格であること・品質が高いこと・ブランド・環境への配慮・生産者への配慮	名義尺度
問11	環境に配慮したエコな商品が売られていたら、そうでない商品と比較して、どれくらいの値段なら買いますか？	安ければ買う・同じ値段なら買う・高くても買う	名義尺度
問12	あなたはどんなボランティア活動に参加したことがありますか？（複数回答可）	募金・清掃・被災地支援・地域貢献・国際協力・その他（ ）・特にない	名義尺度
問13	誰かの役に立つことに喜びを感じますか？	とてもそう思う・そう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・全くそう思わない	順序尺度
問14	どんな人のためにボランティアをしてもよいですか？（複数回答可）	友人や知り合い・地元の人・同じ都道府県の人・日本全国の人・海外の人・ボランティアはしたくない	名義尺度
問15	エシカルツーリズムに興味はありますか？	とてもそう思う・そう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・全くそう思わない	順序尺度
問16	瀬戸内海をきれいにするエシカルツーリズムに興味はありますか？	とてもそう思う・そう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・全くそう思わない	順序尺度
問17	エシカルツーリズムにどの程度参加したいと思いますか？	お金を払ってでも参加したい・無料なら参加したい・参加したくない	順序尺度
問18	旅先でボランティアをするなら、どのくらい時間を使ってもよいと思いますか？	30分・1時間・半日・丸一日・ボランティアはしたくない	順序尺度

3. 結果と考察

アンケート調査を実施した結果、35人から回答を得た。男性が23人、女性が12人であり、60代以上が15人と、回答者の43%を占めていた（表2）。回答者の職業としては、会社員が最も多く、次いで主夫/主婦が多かった（図1）。アンケートデータを取得するにあたり、エシカルツーリズムについて紹介するパネル展示およびスタッフによる説明を実施したが、「エシカルツーリズムという言葉をはじめて耳にした」という回答者も多く、当日の短時間のみ情報に触れただけでは、エシカルツーリズムの特徴と意義や価値をしっかり理解するにはいたらないこともあったと思われる。そのことが、問15（エシカルツーリズムに興味はありますか？）の結果に現れていて、強くエシカルツーリズムに関心を寄せる回答者は比較的少ないという結果となった（図2（a））。

表2 アンケート回答者の性別および年代構成。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
男性	1	1	3	4	5	4	4	1
女性	0	0	4	2	0	4	2	0

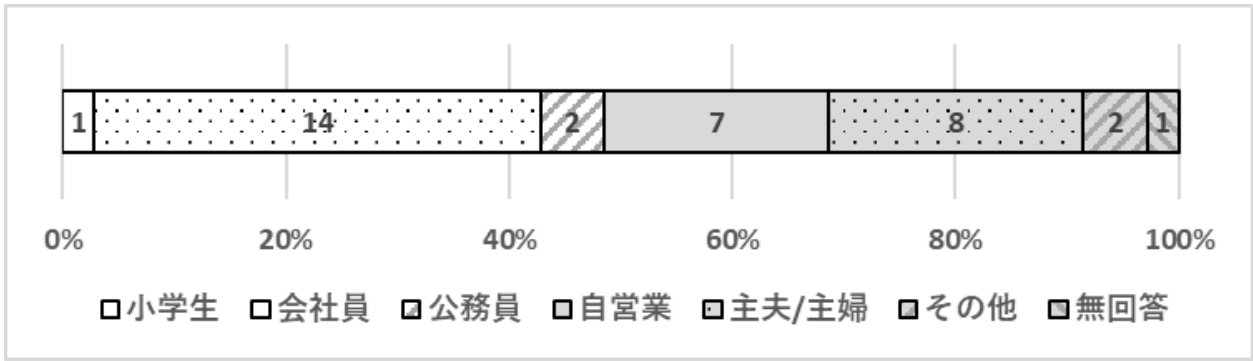


図1 回答者の職業構成。

問15はエシカルツーリズム一般についての質問であるのに対し、問16（瀬戸内海をきれいにするエシカルツーリズムに興味はありますか？）は具体性を増した設問であった。その結果、問15と比較して関心を持つ人の割合が有意に増加した（ $p=0.0002$, Wilcoxonの符号順位検定による対応ある2群のノンパラメトリック比較検定。図2（b））。調査地から一望できる瀬戸内海という身近な場所についての活動を提示したことで関心が高まった可能性がある。問17でエシカルツーリズムに必要な費用負担について調査したところ、大半の回答者は「無料なら参加したい」を選択した（図2（c））。問18で旅先でのボランティア活動に使える時間について調査した結果、「半日」との回答がもっとも多かった（図2（d））。

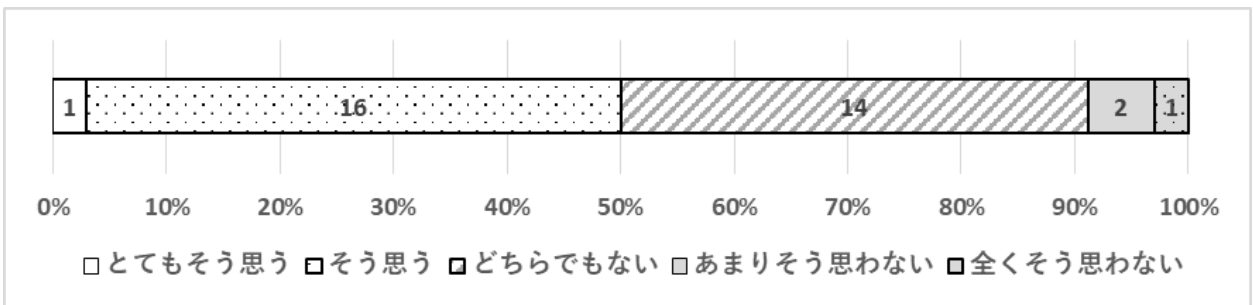


図2（a） 「問15 エシカルツーリズムに興味はありますか？」に対する回答。

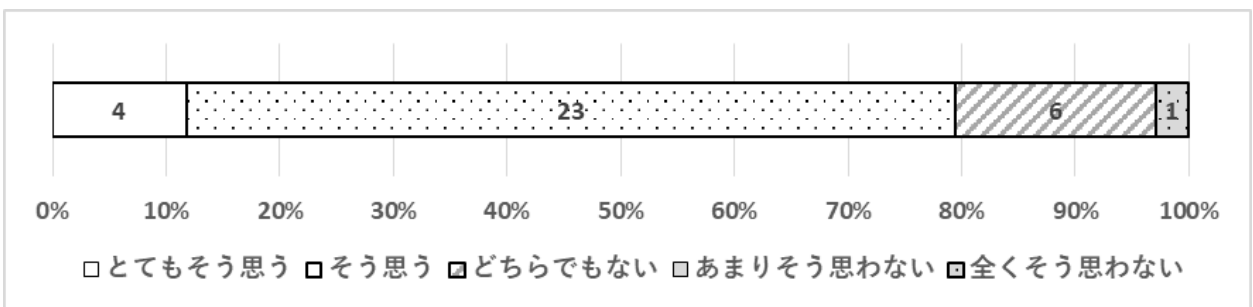


図2（b） 「問16 瀬戸内海をきれいにするエシカルツーリズムに興味はありますか？」に対する回答。

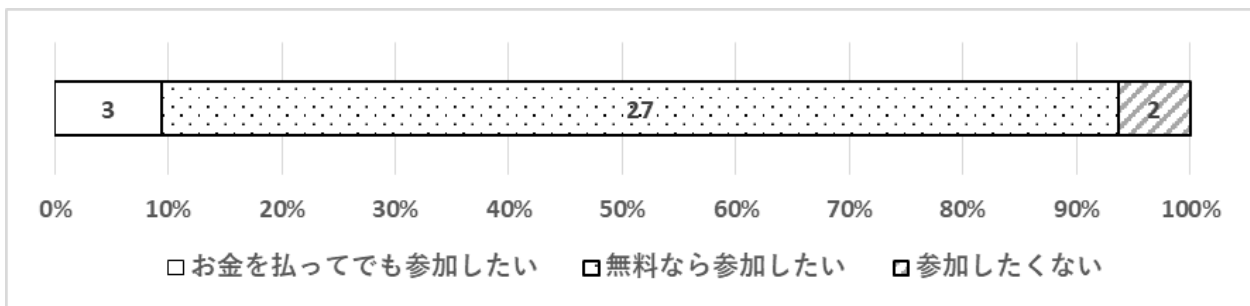


図2 (c) 「問17 エシカルツーリズムにどの程度参加したいと思いますか？」に対する回答。

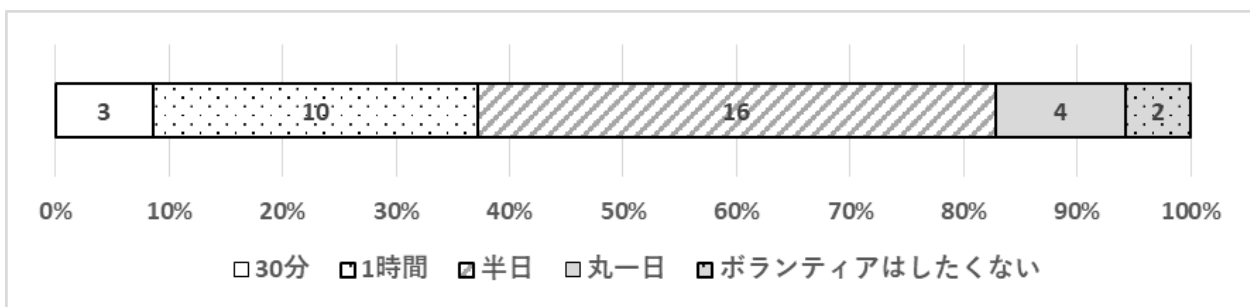


図2 (d) 「問18 旅先でボランティアをするなら、どのくらい時間を使ってもよいと思いますか？」に対する回答。

3.1 エシカルツーリズム参加意欲と関連する特性

エシカルツーリズムに関連する問15-17それぞれと、名義尺度データ（表1）の関係性についての分析を行った（表3）。たとえば、エシカルツーリズム全般への関心（問15）と有意な関係性を示したのは問8選択肢1であり、「環境問題を意識しておこなっている行動」で「ゴミの削減・リサイクル」を選択した人は、エシカルツーリズムへの関心が有意に高いことを示唆している。

問16と有意な関係性があったのは、問10選択肢1（買い物では低価格を意識）、問10選択肢4（買い物では環境への配慮を意識）、問12選択肢7（ボランティア活動は特にしていない）だった。問16に対して「とてもそう思う」と回答した4名全員が問10選択肢1（買い物では低価格を意識）および問12選択肢7（ボランティア活動は特にしていない）を選択していないことから、日ごろからコストパフォーマンス一辺倒ではなく環境に配慮した消費行動を行っていること、またなんらかのボランティア活動に従事した経験を持つことが、エシカルツーリズムへの関心につながる可能性が示唆された。

問17（エシカルツーリズムに必要な費用負担）と問14選択肢5（海外の人のためにボランティアしてもよい）との間には有意な関係性があった。海外の人のためのボランティア意欲がある人は、お金を払ってでもエシカルツーリズムに参加したいと考える傾向があることが判明した。このことから、地元地域を離れた旅先の人に手弁当で貢献したいと考える人物像が浮かび上がり、そのような人たちとエシカルツーリズムの親和性が高いことがうかがわれる。

表3 エシカルツールリズム関連質問に対するカテゴリカル変数の影響（Kruskal-Wallis検定）。有意な関係性（ $p<0.05$ ）にアスタリスク1点（*）、特に有意な関係性（ $p<0.01$ ）にアスタリスク2点（**）を付与。問17に対する有効回答者全員が問4.4を選択しなかったため、この関係性についての検定は行っていない。

変数（ピリオド以下は選択肢番号）	問15	問16	問17
問1	0.154	0.929	0.520
問2	0.751	0.813	0.385
問3	0.327	0.487	0.820
問4.1	0.858	0.589	0.448
問4.2	0.697	0.239	0.202
問4.3	0.761	0.802	0.632
問4.4	0.936	0.853	-
問6.1	0.792	1.000	0.209
問6.2	0.815	0.622	0.558
問6.3	0.673	0.537	0.136
問6.4	1.000	0.429	0.654
問6.6	0.360	0.480	0.202
問6.7	0.440	0.436	0.765
問6.8	0.573	0.791	0.902
問7.1	0.263	0.429	0.675
問7.2	0.246	0.464	0.783
問7.3	0.544	0.108	0.654
問7.4	0.893	0.662	0.194
問7.5	0.322	0.208	0.857
問7.6	0.835	0.555	0.486
問7.7	0.898	0.902	0.783
問7.8	0.217	0.463	0.101
問8.1	0.013*	0.065	0.738
問8.2	0.864	0.556	0.801
問8.3	0.906	0.747	0.857
問8.4	0.572	0.913	0.730
問8.5	0.501	0.072	0.558
問8.7	0.161	0.072	0.101
問10.1	0.139	0.012*	0.124
問10.2	0.154	0.459	0.520

問10.4	0.101	0.042*	0.304
問10.5	0.379	0.925	0.783
問12.1	0.267	0.011*	0.107
問12.2	0.258	0.453	0.579
問12.3	0.858	0.962	0.448
問12.4	0.593	0.723	0.819
問12.7	0.285	0.004**	0.014*
問14.1	0.150	0.723	0.674
問14.2	0.544	0.867	0.188
問14.3	0.881	0.681	0.837
問14.4	0.500	0.632	0.139
問14.5	0.851	0.662	0.039*

3.2 順序尺度データ同士の関係性

順序尺度データ（表1参照）同士の関係性について、Spearmanの順位相関係数検定を行った結果、いくつかの有意な関係性が明らかとなった（図3）。たとえば、問15と問16、問16と問17には特に有意な関係性があったことから、エシカルツーリズム全般に関心がある人は瀬戸内海での清掃活動に興味があり、費用負担の意思も高いことがわかる。さらに、問5（知らない土地や人との出会いに対する関心）と問13（誰かの役に立つことで喜びを感じる）の関係性は特筆すべきである。このことから、旅行に関心を持つ層と、ボランティアに関心を持つ層は潜在的に一致している可能性がある。同様に、ボランティアに関心を持つ人（問13）ほどエシカルツーリズムへの参加意欲（問17）が高いことも示唆された。また、問5と問15には有意な関係性があり、旅行に関心を持つ層ほどエシカルツーリズムへの参加意欲が高くなることもわかる。

	Q5							
Q5	1							
Q9	0.07	1						
Q11	-0.15	0.28	1					
Q13	0.36 ^{**}	-0.03	-0.16	1				
Q15	0.35 [*]	0.09	-0.18	0.23	1			
Q16	0.22	0.13	-0.16	0.24	0.68 ^{**}	1		
Q17	0.16	-0.1	-0.18	0.38 [*]	0.37	0.53 ^{**}	1	
Q18	-0.09	-0.2	0.19	-0.03	0.09	0.04	0.14	1

図3 数量データ同士の相関係数 (r)。統計的に有意 ($p<0.05$) な関係性には「*」、特に有意 ($p<0.01$) な関係性には「**」を付与している

3.3 名義尺度データ同士の関係性

名義尺度データ同士の関係性をカイ二乗検定で総当たりで調べ (図4)、有意な関係性を持つ組み合わせを抽出した (表4)。問7選択肢3と問7選択肢4、問7選択肢4と問7選択肢5には有意な関係性が存在していた。このことから、海洋汚染 (海ごみ) に関心がある人は、水質汚染、土壌汚染への関心が高いといえる。また、問7選択肢3と問8選択肢5には有意な関係性が存在しており、海洋汚染 (海ごみ) に関心がある人は、フードロスを出さないように取り組んでいることがわかる。問8選択肢4と問14選択肢2には有意な関係性が存在しており、エコ商品の購入を心がけている人は地元のためにボランティア活動をする意思があることを示している。問7選択肢1と問14選択肢1には有意な関係性が存在していたことから、地球温暖化に関心がある人は友人や知り合いといった身近な人のためにボランティアしても良いと考えていることがわかった。

表4 カテゴリー変数同士の関係性（カイ二乗検定）。有意な関係性（ $p < 0.05$ ）にアスタリスク1点（*）、特に有意な関係性（ $p < 0.01$ ）にアスタリスク2点（**）を付与。

変数1	変数2	p値	有意性
Q1	Q2	0.002	**
Q1	Q4.2	0.029	*
Q1	Q10.1	0.050	*
Q2	Q3	0.002	**
Q2	Q4.2	0.031	*
Q2	Q8.7	0.010	*
Q3	Q7.8	0.005	**
Q4.1	Q12.3	0.024	*
Q6.1	Q6.2	0.050	*
Q6.4	Q12.2	0.049	*
Q6.7	Q8.3	0.027	*
Q6.7	Q10.5	0.029	*
Q7.1	Q7.7	0.026	*
Q7.1	Q12.2	0.049	*
Q7.1	Q14.1	0.001	**
Q7.2	Q7.5	0.027	*
Q7.2	Q7.6	0.029	*
Q7.2	Q8.1	0.013	*
Q7.2	Q14.1	0.048	*
Q7.3	Q7.4	0.004	**
Q7.3	Q7.5	0.045	*
Q7.3	Q8.5	0.011	*
Q7.4	Q7.5	0.000	**
Q7.4	Q7.6	0.048	*
Q7.4	Q10.5	0.048	*
Q7.5	Q7.6	0.027	*
Q7.5	Q7.7	0.014	*
Q7.5	Q10.5	0.027	*
Q7.7	Q14.1	0.015	*
Q8.1	Q14.1	0.049	*
Q8.2	Q10.1	0.035	*
Q8.2	Q14.1	0.015	*
Q8.4	Q14.2	0.003	**
Q10.1	Q14.1	0.018	*
Q10.4	Q12.1	0.021	*

4. 課題点および今後の展望

本研究によって、エシカルツーリズムという言葉やコンセプトは広まっていないため、市民の興味関心や参加意欲はまだ高まっていないことがわかった。しかし、知らない土地や人との出会いに対する関心（問5）と、誰かの役に立つことで喜びを感じる（問13）に強い相関があったことなどから、旅行に関心を持つ層とボランティアに関心を持つ層が潜在的に一致していること、日ごろから環境意識やボランティア意識の高い人はエシカルツーリズムへの興味関心が比較的高いことなどが判明した。これらは、旅先でボランティア活動を行って誰かの役に立つというコンセプトが潜在的な可能性を秘めていることを示唆している。よって今後は、エシカルツーリズムというコンセプトとその特徴や利点を周知する普及啓発活動によって認知度を上げたうえで、旅行に関心を持つ層やボランティアに関心を持つ層にアプローチすることで、旅行とボランティアの融合により地域の持続可能性を高める活動を普及・発展できる可能性がある。さらに、具体的な活動内容を示すことで興味関心が高まることも示唆されたので、魅力あるアクティビティの企画も必要となると考えられる。

エシカルツーリズムによって、旅行者の利他行動が本人にとって好影響（旅先での環境活動に参加することによる心理的変容・環境保全に貢献する旅行が生む満足感の増加・罪悪感の減少など）を持つと同時に、旅行者を受け入れる地元住民にとっても好影響（人材不足が解消される、地域がきれいになる、地元に対する誇りと愛着が高まるなど）を持つことが実証されれば、旅行者と地元住民がWin-Winの関係性で互いに助け合う持続可能な社会の実現を目指すことも可能となる。コロナ禍明けのいま、人々がふたたび活発に旅行に出かけるようになった。このタイミングで、従来とは異なる思想にもとづくエシカルツーリズムを普及発展させることは、観光の今後のあり方を問うものにもなり得るであろう。

謝辞

本研究は、令和5年度山口県立大学研究創作活動助成および2023年度日本財団助成事業の支援をうけたものです。ここに記して御礼申し上げます。

参考文献

寺田和永・津川秀夫 (2021) 感謝と利他行動がウェルビーイングに及ぼす影響質問紙調査による再検討. 日本心理学会大会発表論文集 日本心理学会第 85 回大会.

藤井紘司 (2022) CSR型エシカル・ツーリズムの探求：沖縄県八重山郡の事例から. 第37回日本観光研究会全国大会学術論文集 147-152.

Ekka, B., Das, G., Aarif, M., & Alalmal, A. (2023). Unveiling the Significance of Sustainability in Tourism: Environmental Conservation, Socioeconomic Development, and Destination Resilience. *Rivista Italiana di Filosofia Analitica Junior*, 14(1), 918-933.

Harrison, R., Newholm, T., & Shaw, D. 2005. *The ethical consumer*. Sage.

Loureiro, S. M. C., Guerreiro, J., & Han, H. (2022). Past, present, and future of pro-environmental behavior in tourism and hospitality: A text-mining approach. *Journal of Sustainable Tourism*, 30(1), 258-278.

Ngo, T. H., & Creutz, S. (2022). Assessing the sustainability of community-based tourism: a case study in rural areas of Hoi An, Vietnam. *Cogent Social Sciences*, 8(1), 2116812.

R Core Team (2023). *_R: A Language and Environment for Statistical Computing*. R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria. accessed 29 December 2023. <<https://www.R-project.org/>>.

Tang, R., Kang, S. E., Lee, W. S., & Park, S. (2021). Influence of residents' perceptions of tourism development on their affective commitment, altruistic behavior, and civic virtue for community. *International Journal of Tourism Research*, 23(5), 781-791.